

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	高槻市立うの花療育園		
○保護者評価実施期間	2025年12月10日 ～ 2025年12月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数) 39名
○従業者評価実施期間	2025年10月20日 ～ 2025年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 30名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
子ども支援	・園児が安心して通え、通園を楽しみにしてくれている。	・子どもの興味・関心に合わせて楽しめる遊びを提供する。 保護者以外の大人との関わり、信頼関係づくりを大切にしている。	・子どもの客観的評価は、発達検査と行動面の評価ツールを用いて子どもを評価し、特性理解や支援につなげていく。
保護者支援	・日々の療育活動のみならず、保護者が参加できる企画を定期的に開催し、園児の成長と一緒に確認したり、疑問や不安など気軽に相談できるような機会を設けている。	・保護者と職員の信頼関係づくり。懇談以外でも、来園時に保護者に話しかけ、保護者を認め、褒めることも意識している。	・今年度途中からあてぼう会の人数調整を図った。今後も枠組みを調整し、保護者が来園時に職員が丁寧に保護者と話す時間を持つことができるようにしていく。また、子どものニーズと、保護者の方にとっても子どもの成長をより見やすく参加していただくために、現状の枠組みを整理し、見直していく。
保護者支援	・ICTコドモアプリの連絡帳導入。	・コドモアプリでの連絡帳になり、写真を添付し、活動内容を見える形で伝えるようにしているので、分かりやすいといった意見もある。	・連絡帳にてクラス全体の取り組みはわかるが、子どもの様子の詳細が分からなかったり、家庭での取り組みの共有がされていないと感じる保護者がいたので、限られた時間の中で子どもの様子や個別の取り組みを伝えていけるような方法を今後も検討していく。
保護者支援	・家族支援プログラムの実施や保護者への情報提供や交流の機会はいくつも設けられている。	・ペアプロやペアトレ、全体懇談会、おはなし会などで、保護者同士の交流の場を設けたり、親の会共同開催での囲む会や、手をつなぐ親の会との交流の場は定期的に紹介している。	・更なる保護者同士の交流の機会や内容の充実を図る。
その他	・直接かかわる多職種が意見交換をしながら、個別支援計画書を作成している。	・サービス担当者会議(クラス会議)の時間を有効活用し、子どもに関わる多職種が必要に応じて参加し、発達検査を含め多岐に渡る情報交換をしている。 ・様子を刷新した個別支援計画は、保護者の希望や願いを組み入れ実施。 ・個別支援計画とセッションの計画は、相互に関連させて作成している。	・保護者にわかりやすい書面となるよう、更なる改良を模索していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	・職員不足により対応できていないと保護者が感じる状況がある。	・職員の人数は基準を満たしており、職員の欠動には調整を図っているが、子どもの特性がありそこに対応する職員がいる場合や、職員が慌てたり、現場で忙ししている姿に、保護者が職員不足を感じやすい。 ・子どもの対応と業務が重なる時間帯(登園時の受け入れ、給食前後等)に、配置が上手いかず、手薄に見える。 ・子どもの人数により職員同士助けを呼ぶことは伝えていますが、声を掛けることを戸惑う職員がいる。	・職員配置への意識づけや、職員からの発信や声の掛け合いの大切さを、研修等でも周知していく。
	・職員同士の情報共有が、口頭や書面などのアナログな手法が多く、情報の更新や共有の効率性が低い。情報を確認する時間も取りにくい。	・現場で、書面等をしっかりと見ることができない。事務所で確認する時間を持つことが難しい。 ・会議で確認できていることもあるが、できていないことも多い。 ・調整さん、Googleドライブ等、使いこなせていない。	・保護者の情報は、コドモンにて共有できるようになっているので、活用していく。コドモンのクラス日誌等への入力にて、情報共有も図っていく。 ・効率性や、時間の調整は検討していく。
	・きょうだい児支援の機会について。行事への参加は行っているが、きょうだい児同士の交流の場は設けていない。	・きょうだい児の参加方法について	・きょうだい児同士が関わる機会を行事の場面で作るなど、検討していくことが必要と考える。
	・児童発達支援のサービス提供記録として、ICT導入による入力不十分であると認識した点があった。	・コドモン導入に際して、書面の記録からICTへの変更に伴い、連絡帳とサービス提供記録(園児の記録)が連携されるようになったが、園児の個人の記録内容が不十分であることが判明した。	・毎日の園児の記録がサービス提供記録に成り得ることを職員に周知し、その必要性とICTの活用方法を再度確認する。